

第6章

本事業に対する 各国首脳等のメッセージ



1 日本

● 安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージ

第42回「東南アジア青年の船」事業に参加される各国代表の皆さん、ようこそ日本にいらっしゃいました。心から歓迎いたします。

私は、総理就任以降、皆さんのお国10か国全てを訪問いたしました。行く先々で温かいおもてなしを受けるとともに、「法の支配」の尊重という重要な大前提がASEAN各国と日本との間で共有されていることを実感いたしました。

今月後半には日・ASEAN首脳会議がマレーシアで開催されます。日本とASEANの幅広い分野でのパートナーシップの一層の強化に向け、各国の首脳と率直に語り合いたいと思っています。

皆さんは、明日、東南アジアと日本をつなぐ海への旅

に出発をされます。船の上では、異なる歴史・文化・宗教・価値観を持つ仲間との出会いがあります。互いに学び合い、語り合って、相手の国のすばらしさを認めるとともに、そして、自らの生まれた国への誇りを持ち、人間同士の絆を築いていただきたいと思います。

これまで過去41回に参加した青年の皆さんは1万人を超え、今各分野で活躍をしておられます。この貴重な経験を活かして、アジアの未来のために貢献する人材として、皆様がそれぞれの国で活躍をされますことを祈念します。そして、船の上で築いたかけがえのないこの友情をいつまでも大切にしていきたいと思います。

平成27年11月4日

表敬訪問

内閣総理大臣官邸にて

2 フィリピン

● Mr. Paolo Benigno A. Aquino IV フィリピン共和国上院議員からのメッセージ

上院議員のバム・アキノです。SSEAYPで人生が変わりました。私は既参加青年ではありませんが、SSEAYPで妻と出会いました。彼女は第31回既参加青年、マニラ首都圏の代表青年でした。

皆さん、SSEAYPが私の人生を変えたことをお話するためにここにいますし、ASEANと日本の未来のリーダーの前にいられることを光栄に思います。

すばらしい冒険に皆さんを送り出すためにここにいられるのは大きな喜びです。共に乗船し、新しい場所を発見し、新しい友人を作ることを心待ちにしておられることでしょう。

何千年も前、人は木製のボートに乗り、未知のものに向かって漕ぎ出しました。見知らぬ海岸で見知らぬ顔、外国語、新しいスパイス、財宝、自分たちが知らない慣習を目撃することになりました。山や海はもともと人々を隔てるものでした。しかし、好奇心に満ちた冒険家である私たちは、お互いを見出しました。私たちは障壁を打ち破りました。車や列車で山々を乗り越えました。船で荒れ狂う海を手なづけました。飛行機や宇宙船で空を征服しました。

今日、私たちはかつてなかったほど結びついています。インターネットのおかげで、世界中の人々と瞬時に出会い、交流することができます。今すぐに、皆さんはソーシャル・メディアで故郷の人々にメッセージを送ることができるのです。グーグルで「孤立」部族について検索すれば、アマゾンの最も人里離れたところで彼らがどのように生活しているかを学ぶことができます。

今日、確かに私たちはかつてなかったほど結びついています。人々に出会ったり、新しい言語を学んだり、新たな習慣になじんだりすることが自宅にいながらにできるのです。これまでになく、多文化主義を培い、多様性を喜ぶことができます。

それでも、自分自身や自分の国、自分の地域といった枠内で生活しながら、不和を生じさせる障壁を克服しなければならぬ非常に多くの分野があります。残念ながら、多くの人はいまだにお互いを理解し合えておらず、違いを容認していません。

世界中で、ここ私たちの国においてさえ、対立がはっきりと存在しているエリアがあります。世界中の多くの場所で対立があります。世界のこれらの地域では、不和、差別、時には互いに対する憎しみが見られます。

大なり小なり、差別があり、多様性を受け入れたり、違いを尊重したりできない状況が見られます。

しかし、皆さん、多くの人々が失敗しているものの、私は望みを抱いています。この前方にいるリーダーの皆さんには希望があるのです。皆さんは成功します。

共に時間を過ごし、アジア中の青年男女が友情の絆で結ばれるなら、共に冒険に乗り出し、世界の他の地域について共に学ぶなら、私たちの違いという美しさに対して、自分の思いや心を開くことになるでしょう。

様々な歴史、文化、実例や視点に触れることで、皆さんが成長し、学び、アジアの次世代及び世界市民へと進歩を遂げ、この世界を全ての人にとっての平和と繁栄への道筋へ導いてくれるものと期待しています。

より強固で一つに結ばれたアジアの到来を告げ、全ての人にとっての豊かな国づくりを行いながら、様々な歴史や文化に敬意を表するこのような機会があるのです。

「東南アジア青年の船」事業のおかげで、この進歩、この変化の一部になる機会があるのです。各国の親善大使になる機会があるだけでなく、皆さんの訪問先において、一つに結ばれたアジア、理想的なアジアの代表になるという幸運に浴することになるのです。

皆さんは、対立ではなく、調和のうちに成長しつつある多様な地域についての色彩豊かで見事なイメージを共に描くことができます。

このすばらしい冒険へと乗り出す際に、皆さんの頭の片隅にでも置いておいていただきたい言葉を引用します。「トム・ソーヤーの冒険」と「ハックルベリー・フィンの冒険」の著者であるマーク・トウェインの言葉の引用です。

「旅は先入観、偏見、偏狭にとって致命的である。」

友人の皆さん、共に旅を続けるなら、私たちの国、私たち自身、そして私たちの将来の世代、皆が望んでいる一つに結ばれたアジアを生み出し、共に創り出すことでしょう。

皆さんの健康をお祈りしています。皆さんの安全をお祈りしています。そして、皆さんが楽しく過ごされることをお祈りしています。

忘れがたい思い出、永続する友情、最高の自撮り写真、そして、人生を変えるような体験というお土産を手にも帰国されますように。

Mabuhay kayong lahat! Mabuhay ang SSEAYP! どうもありがとうございました。

平成27年11月11日
到着歓迎式
ダイヤモンドホテルにて

3 ベトナム

● Mr. Lam Dinh Thang ホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会常任副書記官からのメッセージ

時間がたつのは非常に早いものです。今日は「東南アジア青年の船」事業、ホーチミン市での5日間の日程の最終日となりました。皆さんと知り合いになったばかりなのに、さようならを言わなければなりません。しかし、この町の人々はこのプログラムのすばらしさに十分触れてきました。参加青年にとっても良い思い出になったことでしょう。

42年目の航海に出たこのすばらしい事業により、この地域及び日本の青年がより深い理解を得、友情を築いています。皆さんのような青年が国際的な視野を広げ国際協力の精神を涵養するのにうってつけの機会です。この事業は平和、友情、連帯といった本質的な価値観と共に、より明るくより良い未来のための刺激となってきました。

ベトナムにとって、過去数年にわたり、この事業は外交において重要な役割を果たしてきました。本年がとりわけ重要なのは、ベトナムは今年12月にASEAN経済共同体の一員となるからです。

このように、訪問国活動では、多くの方が義務感からではなく、SSEAYPへの愛情から、協力し、時間やエネルギーを割いてくれました。何百人もの公務員、会社員、家族、ボランティア、既参加青年がこのプログラムへの情熱や熱意を示してきました。私たちがしてきたことの中には、どうしても避けられないミスがあったかもしれませんが、皆さんにぜひとも知っていただきたいのは、ベトナムはまだ開発途上ではありますが、私たちの愛情、精神、おもてなしの心は何よりも大きいということです。

昨夜、船上であった既参加青年のつどいでの言葉を引用させてください。「SSEAYPは私たちにより広い世界をもたらしてくれました。SSEAYPは私たちが心を開き、日本やASEANの人々と文化に対する知識を得られるようにしてくれました。SSEAYPは私たちがより

多くの父や母、兄弟や姉妹のいる多文化の家族の一員になるにつれて、私たちの心も開いてくれました。」

ご覧のように、皆さんにさようならを言おうと皆がここを取り囲んでいるのです。これからもずっと、皆さんの心の中にこの尊い愛情をとどめておいてください。信じられないかもしれませんが、SSEAYPが皆さんの人生を変えるというのは真実なのです。

あと数日すれば、皆さんはもう参加青年ではなくなりますが、覚えておいていただきたいのは、皆さんはいつでも既参加青年だということ、そして、私たちは手と手を取り合って、私たちの国とSSEAYPのために強固な共同体を構築できるということです。

本日、SSEAYPを通じ、青年の間で友情を育んでいます。明日は、参加青年のコミュニティを通じ、国家間で協力関係を構築するのです。かつて参加青年であった者は、永遠に参加青年なのです。

受入委員会を代表し、管理部の皆さん、ナショナル・リーダー、参加青年の皆さんに対し、皆さんの積極的かつ有益なご支援に感謝申し上げます。海軍第125旅団、既参加青年、ボランティア、ホストファミリーの皆様に対し、ホーチミン共産青年同盟と共にレセプションの運営に熱心にかかわってくださったことに感謝します。

最後になりますが、さようならを言うのは簡単なことではありません。ここで撮った写真では皆さんの温かさを伝えることはできないのです。皆さんがいなくなるのは寂しいです。

SSEAYP 2015の参加者及び管理部の皆さんにとって、これからの旅が実り多く、思い出深い体験となりますように。さようなら、そして、またお会いしましょう。

ありがとうございました。

平成27年11月21日
出港式
カットライ港にて

4 ラオス

● Dr. Bounpone Bouttanavongラオス人民民主共和国副首相からのメッセージ

まず、ラオス政府とラオス国民を代表し、第42回「東南アジア青年の船」事業に参加されているASEANと日本の全ての参加者の皆さんをラオス人民民主共和国へ心から歓迎します。

皆さんの今回の訪問は、主にラオス人民民主共和国建国40周年とラオス青年同盟やその他の設立60周年記念の大切な行事をラオス国民が喜びにあふれて祝っている時に実施されています。

「東南アジア青年の船」事業はASEANと日本の青年のための最も優れた青年交流事業ですが、相互理解と友情を促進し、文化や伝統を紹介し合い、ASEANと日本の間の協力関係を強化することを目的としています。更に、ASEANと日本の若い人材の育成に資する最も有用かつ有益なプログラムとして高く評価しています。したがって、参加者の皆さんにはASEANと日本の繁栄とさらなる協力のために、友情を強化し、このプログラムで得たネットワークを拡大するようおすすめします。

1997年、ラオス青年同盟の事務局長だった時、私は初めてSSEAYPにラオスの青年が参加できるように支援した担当で、現在に至っています。この点で、ラオス政府を代表し、日本政府とASEAN加盟各国政府、SSEAYPの管理官に対し、ラオスの青年がラオス人のすばらしい伝統や文化的価値観をASEANと日本の皆さんと共有する機会を与えてくださったことに心から感謝の意を表します。ご存じのように、ラオス政府はこのプログラムを非常に重視しており、日本政府が今後もこのプログラムを継続されることを切望しています。

最後になりましたが、ラオスでの滞在がすばらしく実り多いものとなるよう願っています。

第42回「東南アジア青年の船」事業の輝かしい成功をお祈りしています。

ありがとうございました。

平成27年11月19日

表敬訪問

ラオス政府庁舎にて

5 ミャンマー

● H.E. Dr. Daw Khin San Yee 教育大臣からのメッセージ

皆様、こんばんは。

第42回「東南アジア青年の船」事業の歓迎夕食会に皆様を温かくお迎えできることは大変喜ばしいことです。

ミャンマー政府及び教育省を代表し、今宵、第42回「東南アジア青年の船」事業の管理官、にっぽん丸船長、管理部長、ナショナル・リーダー及び参加青年の皆様に敬意を表し、歓迎夕食会を開催できますことを光栄に存じます。

皆様、日本政府が東南アジア諸国と積極的に協働する点で確固たる立場をとっており、活動を通じて青年のためのより良い異文化交流の機会を設けてきたことについてお話できるのをうれしく思います。この機会をお借りし、日本政府に対し、教育を含む多くの分野でミャンマーを寛大に支援してくださっていることに心から感謝申し上げます。

「東南アジア青年の船」事業は日本とASEAN双方にとって意義深いものです。関係する国々の青年の国際的視野を常に広げ、友情とより良い理解を培わせてきたからです。

皆様、「東南アジア青年の船」事業では、日本と東南アジア諸国の参加者は、一つになって、船上、日本及びこの地域の様々な国で多様な活動に取り組みます。このプログラムはネットワークを広げ、東南アジア諸国と日

本の文化や伝統に関する相互理解を深めるという本質的な目的を果たしてきました。

このプログラムの波及効果にはすばらしいものがあります。

私は青年の皆さんにそれぞれの文化の特異な面や価値観、伝統を維持するよう強く勧めます。それらはこれまでの100年間、競争や問題、世界の需要の変化に直面しながらも、私たちの祖先を導き、文化を育み、私たちの大陸や世界において平和と繁栄をもたらしてきたのです。

最後に、日本政府に対し、本年、教育省が第42回「東南アジア青年の船」事業をミャンマーで受入れる機会を与えてくださったことに、あらためて心からお礼申し上げます。

日本政府には、「東南アジア青年の船」事業の監督責任や、責任者の方々の不断の努力、「東南アジア青年の船」事業を運営するためのこまごまとした努力に対し、心からの祝辞を述べたいと思います。

ヤンゴンでの滞在が楽しいものとなりますように。今夜の夕食会へ皆さんを温かくお迎えして私のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

平成27年11月27日

歓迎夕食会

スーレー・シャングリラ・ホテルにて

6 マレーシア

● Datuk Seri Panglima Musa Haji Aman

サバ州知事からのメッセージ

サバ州政府と市民を代表し、日本政府及びマレーシア青年スポーツ省に対し、事業の成功に向けたご尽力に感謝申し上げます。コタキナバルが第42回「東南アジア青年の船」事業の最後の寄港地であることを光栄に存じます。また、サバ州青年スポーツ省及び実行委員会がこの行事に熱心に取り組んできたことを称えたいと思います。

このバーチャル・リアリティとソーシャル・メディアの時代において、人の交流を促進するいかなるプログラムや活動、特に青年間におけるものは、適切かつ時宜にかなっています。日本のように技術が進み、インターネットに精通した国が、実際に顔と顔を合わせた交流を促進する努力を最も重要なこととしているのは、心強いことです。インターネットは、世界の発展にとって、すばらしい道具であることは疑いようがありません。それにもかかわらず、世界の進展において、インターネットの使用には、人的要素を補完的に継続的に増進していかなければなりません。

地球の裏側にいる人と瞬時にコミュニケーションできることがどんなに便利であったとしても、顔と顔を合わせてコミュニケーションすることほど有意義ではないということには、同意いただくとします。このようなわけで、若い人には国内外を旅するよう強くお勧めいたします。あらゆる分野の様々な文化的背景を持つ人々と交流することで、世界の諸問題の多くは解決できるか、むしろ、防ぐことができるに違いありません。人と人との交流は、積極的な価値観を促進することと相まって、結果的に、より良く、より進歩的な国際社会をもたらすこととなります。

青年は各国の希望であり大志です。このような事業には、政府や社会団体、社会全体を含む各方面、そして、最も重要なのは、両親や保護者をからの全面的な支援や配慮を与えなければなりません。世界は急速に変化しており、あらゆる方面から、まさしく社会構造を引き裂こうとする問題が存在します。消極的な傾向を克服するため、私達は、青年に力を与えるように努力しなければなりません。

今日の若い世代、つまり、「ジェネレーションY」は、先端技術によるコミュニケーションや学習機器が利用しやすいおかげで、非常に情報通であり、博識で、高

い教育を受けています。この現在の若い世代がリーダーの役割を担うとき、責任感、人としての思いやり、そして、心からの共感を持って行いをするために、このような価値ある資質を役立て、注入しなければなりません。私たち、年長の世代も今後の後継者に対し、思いやりの心を持つべきです。私たちの価値観を若い人たちに押し付けることはできませんし、押し付けてはなりません。私たちができるのは、彼らの人生に積極性という種を植え、それを育てること、そして、私たちが好意で行っている仕事が、私たちの思い描いているものを生み出すことに楽観的であり続けることです。

この青年の船事業は、積極性という種を植える申し分のない例です。人を見、人前に出るという精神で、異なる国々の青年たちは、健全な活動に参加し、時の試練に耐える友情を築きます。皆さんは様々な寄港地を旅し、世界市民として皆さんを永久に結びつける思い出となる体験を共有します。人と人との交流からしか得られない緊密な関係なのです。

緊密な関係と言えば、ホストファミリーに選ばれた家庭にとって、この事業の参加青年を自宅に招き入れる明日は、記念すべき日になります。関係者の皆さんにとって、実りある体験になると確信しています。最近、よく言われることですが、この機会に新しい友人を作り、ネットワークを広げるようにお勧めします。外国からの来た皆さんは、サバ州が非常にすばらしいところだという理由を、ご自身で見つけていただけたら幸いです。

ここサバ州では、豊富な天然資源や文化遺産の多様性を誇りにしています。皆さんの滞在中に私たちの自然や文化の魅力のいくつかを見ていただけたらと思います。サバ政府は、キナバル山を始め、州を取り囲んでいる海に生息する海洋生物の多様性に至るまで、生態系を保護することに尽力しています。

皆さんの滞在が快適かつ思い出深いものとなることを願っています。この事業から生まれた友情が広まり、近い将来、より良い世界のために寄与しますように。すばらしい夕べになりますように。

ありがとうございました。

平成27年12月5日

歓迎夕食会

シャングリラ・タングジュンアル・リゾート・アンド・スパ・コタキナバルにて